

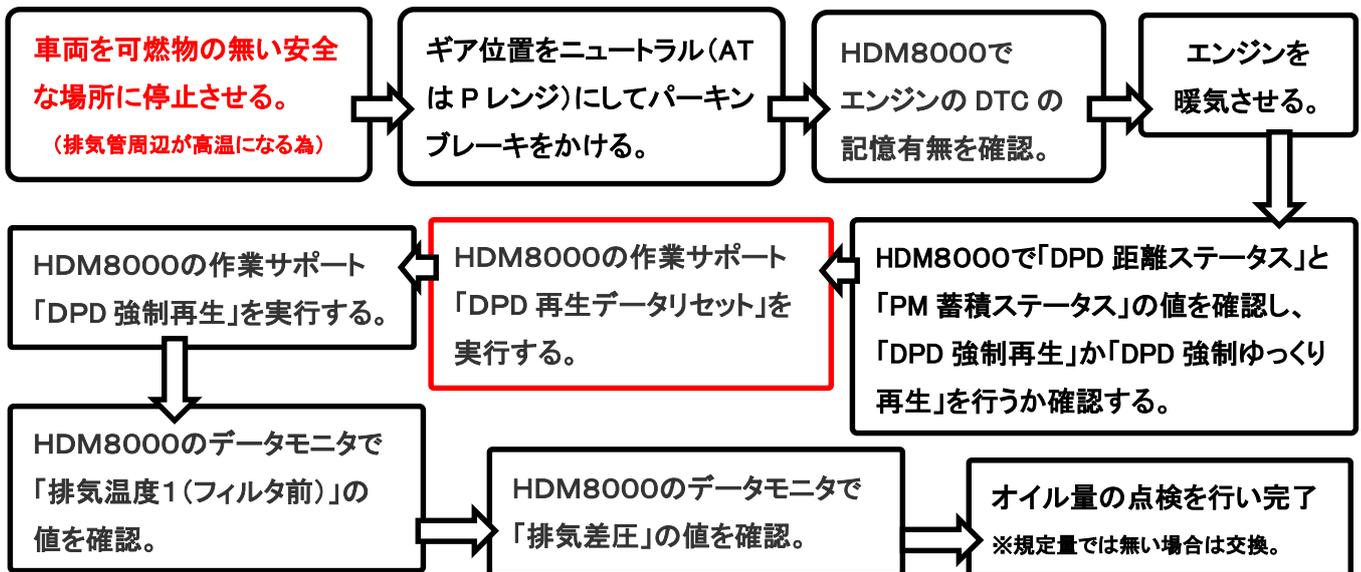
日立ダイアグモニタHDM-8000操作ガイド
いすゞ/DPD 再生/例:2007年式エルフ(NPR85/エンジン4JJ1)

注意事項/必ずお読みください

- 実際の作業に当たっては必ず自動車メーカー発行の整備解説書で作業手順、作業上の注意点をご参照の上、作業を行って下さい。
- 自動車メーカーにより予告なく車両の仕様が変更される為、本資料に掲載する機能が使用できない場合がございます。

1. DPD 強制再生の流れ

- DPD フィルタに一定量のPMが堆積してPMを燃焼する必要がある場合、またはDPD フィルタの状態を確認する際、スキャンツールの作業サポート機能「DPD 強制再生」か「DPD 強制ゆっくり再生」を使用します。
- 下記の流れで「DPD 強制再生」か「DPD 強制ゆっくり再生」を選択して実行します。



2. HDM8000操作手順(DPD 強制再生を選択した場合/作業要領含む)

以下の手順はエンジンのデータモニターで「DPD 距離ステータス」「DPD 蓄積ステータス」の値により「DPD 強制再生」を選択した場合の手順となっています。

【手順001/車両側の準備】

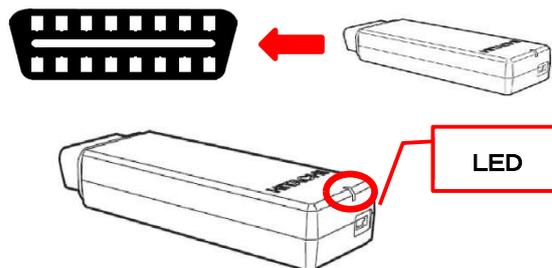
下記を行ってください。

- ① 周囲に可燃物が無く、換気が十分に行える安全な場所に車両を停止させてください。(DPD 強制再生中は排気管周りが高温になる為、特に排気管回りに可燃物が無いか、ご注意ください)
- ② シフトレバーがニュートラルであることを確認してください。(AT車はPレンジ)
- ③ パーキングブレーキをかけてください。
- ④ エンジンをアイドリング状態にしてください。尚、アイドリングコントロールノブによってエンジン回転数が上がっている場合は、左いっぱいに戻してエンジン回転数を下げてください。
- ⑤ アイドリングストップ装着車はアイドリングストップスイッチをOFF(解除)してください。
- ⑥ PTO装着車はPTO作動を停止させてください。

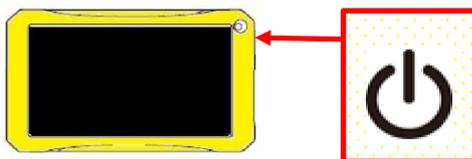
(次ページに続きます)

【手順002/車両へのHDM-8000の接続と起動】

- ①HDM-8000のインターフェースボックスを車両側の診断コネクタに接続して下さい。
- ②HDM-8000のインターフェースボックス本体側LED が緑色に点灯していることを確認して下さい。



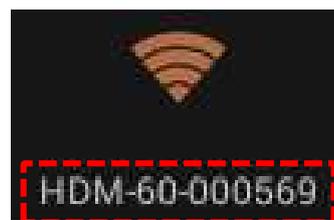
- ③HDM-8000のタブレット本体の右側面にある電源スイッチを押して、タブレットを起動して下さい。



- ④タブレットが起動したら画面上のカギのマーク  に指を当てて右側にスライドさせて、画面ロックを解除して下さい。
- ⑤タブレットとインターフェースボックスが無線 (Wi-Fi/ワイファイ) で接続されているか確認を行います。まず、「車両一覧」画面が表示されましたら画面右上に指を当てて、そのまま下におろして「クイック設定ツール」を表示して下さい。



- ⑥「クイック設定ツール」内にあるWi-Fi(ワイファイ)のアイコンが右図の様に色が反転した状態で表示され、その下にHDM8000のインターフェースボックスのシリアル番号(右図の破線で囲われた文字列)が表示されていれば無線での接続がされております。次の【手順003】に進みます。



【手順003/クイック設定ツールの終了】

「クイック設定ツール」の下端部に指を当てたまま上方に上げて「クイック設定ツール」を終了して下さい。



(次ページに続きます)

【手順004/車両側の完全暖気】

継続してエンジンの暖気を行ってください。(手順004に進みます)

【手順005/「故障診断」のタップ】

① タブレットの「車両情報」の欄(赤の破線で囲われた部分が空欄であることを確認して下さい)。(※1、※2)



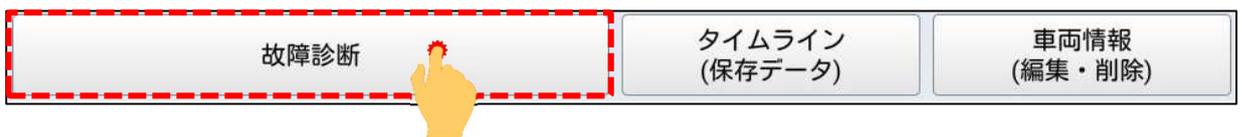
※:「車両情報」の欄に作業中の車両と異なる車両の情報が表示されている場合は画面下部の「戻る」
 ボタンをタップすると空欄になります。

② 画面上部の「故障診断」ボタンをタップして下さい(【手順005に進みます】)。

【アプリ設定をフル機能モードに設定している場合】



【アプリ設定を故障診断モードに設定している場合】



【手順006/メーカー選択】

画面に「接続中...しばらくお待ちください」が表示されたあと「メーカー選択(診断ソフトの選択画面)」が表示されます。画面を上方向にスクロールさせて「いすゞ」をタップして下さい。



(次ページに続きます)

【手順007/対象年式の選択】

画面にソフト名が表示され「イニシャライズ中・・・」と切り替わり、その後、「対象年式の選択」の画面が表示されます。入庫車両に該当する年式をタップします。



【手順008/機能選択】

「機能選択」の画面が表示されます。通常は「全ての機能」をタップします。



【手順009/年式選択メニュー】

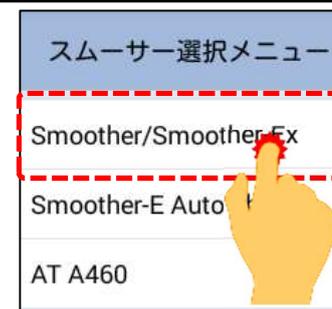
「年式選択メニュー」の画面が表示されます。入庫車両に該当する年式をタップします。



【手順010/スモーカー選択メニュー】

「スモーカー選択メニュー」の画面が表示されます。入庫車両に該当するミッションのタイプをタップします。

※: 車両のミッションのタイプは助手席側に張り付けられた ID プレートの「TRANS」に記載されているオプションコード(アルファベットの文字列)を、車載の取扱説明書で照会することで判別することが可能です。



【手順011/BCM 選択メニュー】

「BCM 選択メニュー」が表示されます。通常は「BCM」をタップします。



【手順012/いすゞメインメニュー】

「いすゞメインメニュー」が表示されます。「診断」をタップします。



(次ページに続きます)

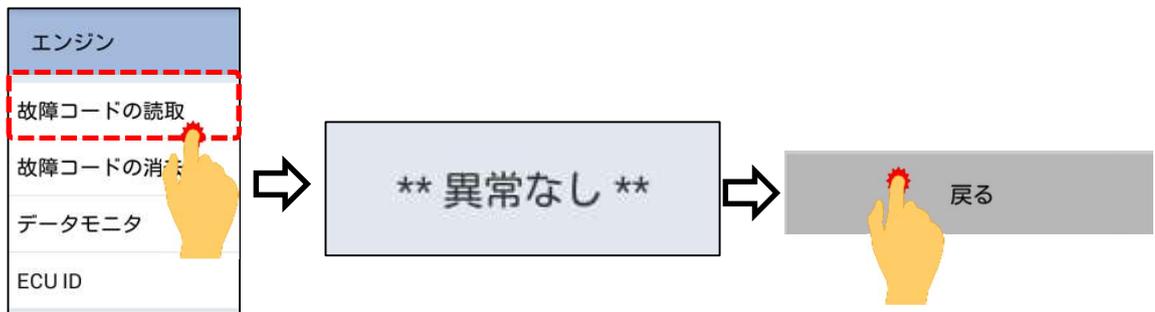
【手順013/システム選択】

「システム選択」が表示されます。「エンジン」をタップします。



【手順014/故障コードの読み取り】

「エンジン」が表示されましたら「故障コードの読み取り」をタップし DTC(故障コード)の有無の確認を行ってください。DTC(故障コード)が表示されている場合は、DTC で示す箇所の点検を行ってください。「異常なし」と表示される場合は、画面下の「戻る」をタップしてください。



【手順015/データモニタの実行】

「エンジン」に戻りましたら「データモニタ」をタップしてください。「表示項目選択」が表示されますので画面右下の開始をタップします。



【手順016/データモニタの確認】

データモニタが実行されます。画面を上下にスクロールさせて「DPD 距離ステータス」と「DPD 蓄積ステータス」が画面に表示される様にしてください。

項目	値	単位	最小値	平均値	最大値
DPD モード	10		10	10	10
DPD 距離好一歩	0		0	0	0
DPD 再生不良好一歩	0		0	0	0
DPD 再生未達好一歩	0		0	0	0
DPD 蓄積好一歩	0		0	0	0
DPD TRIP	1.3750	km	1.3750	1.3750	1.3750
DPD DIL TRIP	85.6	km	85.6	85.6	85.6
排気200時間好一歩	OFF				

(次ページに続きます)

【手順017/DPD 距離ステータスとDPD 蓄積ステータスの確認】

画面上の「DPD 距離ステータス」と「DPD 蓄積ステータス」の値と整備解説書の値を照会し、車両が「DPD 強制再生」か「DPD 強制ゆっくり再生」を実行するのか確認に行ってください。

【参考例/DPD 距離ステータスと蓄積ステータスのデータと選択する作業サポート】

DPD 距離ステータス	DPD PM蓄積ステータス	選択する作業サポート
0～1	0～2	DPD強制再生
2～3	3～4	DPD強制再生
0～3	5	DPD強制ゆっくり再生
4	0～5	DPD強制ゆっくり再生

【手順018/作業サポートの実行】

データモニタ上で「DPD 距離ステータス」と「DPD 蓄積ステータス」の確認が完了したら、データモニタ画面の右上の「戻る」をタップして「診断」に戻った後、画面右下も「戻る」をタップして「いすゞメインメニュー」に戻ってください。
「メインメニュー」が表示されましたら「作業サポート」をタップしてください。



【手順019/エンジンの選択】

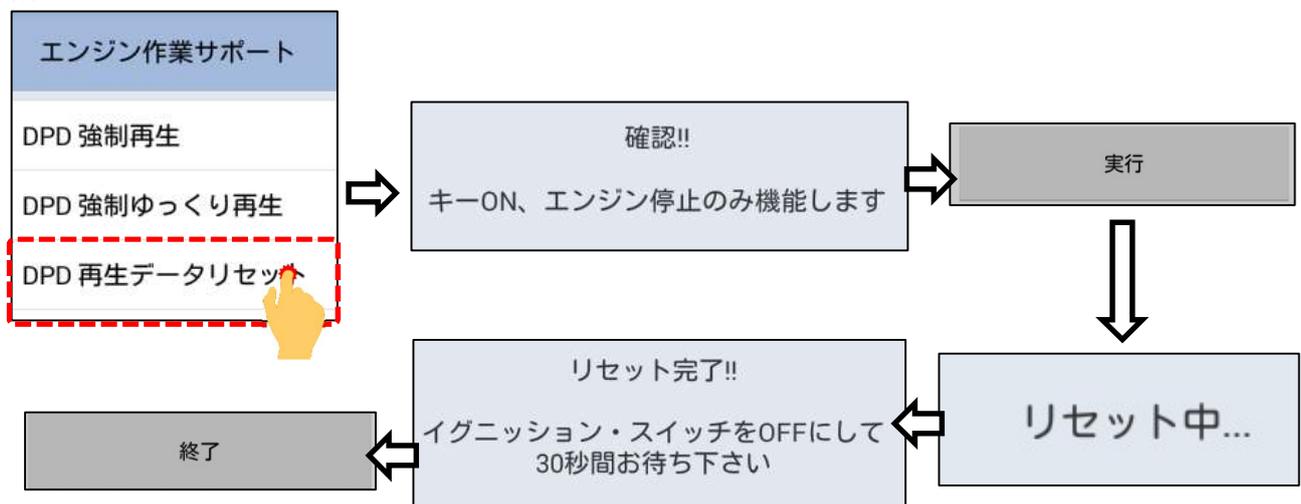
「作業サポート」が表示されましたら「エンジン」をタップしてください。



【手順020/DPR再生データリセットの実行】

「エンジン作業サポート」が表示されましたら「DPD 再生データリセット」をタップしてください。
画面上に「確認!!キーON、エンジン停止のみ機能します」と表示されましたら車両をキーONの状態にし、画面右下の「実行」をタップしてください。
しばらくの間、「リセット中」と表示されます。
「リセット完了」が表示されましたら、画面の表示に従ったIGをOFFにしてください。
最後に左下の終了をタップします。

※



(次ページに続きます)

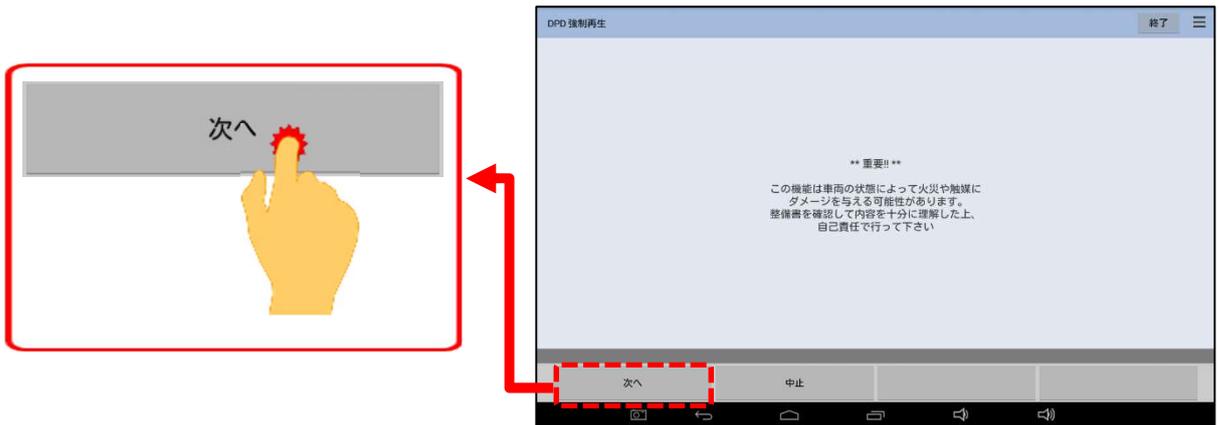
【手順021/DPD 強制再生の実行】

エンジンを始動後、「エンジン作業サポート」で「DPD 強制再生」をタップします。
※【手順017】で車両が「DPD 強制再生」を行うことが確認出来た場合。



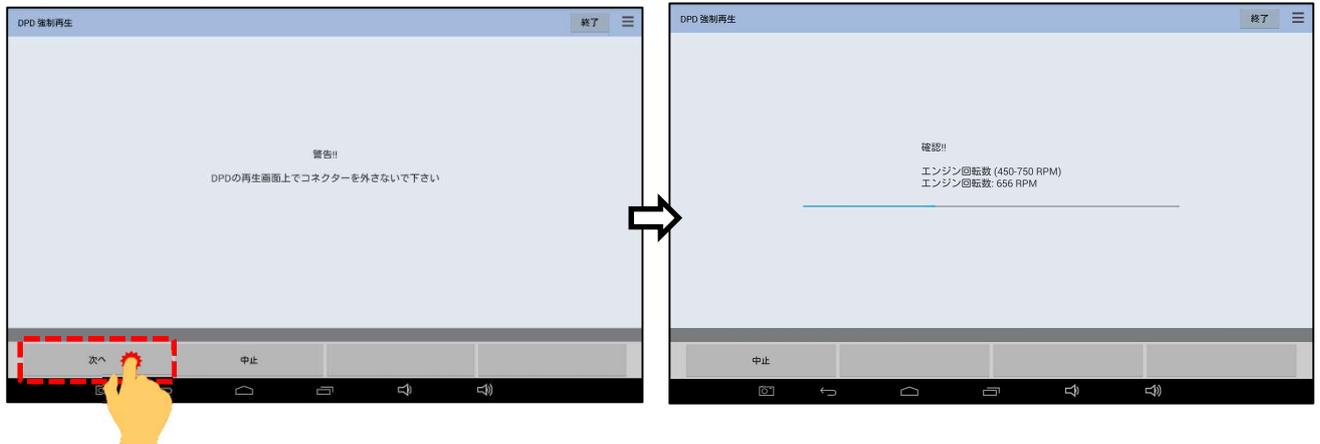
【手順022/注意喚起メッセージ】

作業上の注意喚起メッセージが表示されますので確認後「次へ」をタップしてください。



【手順023/エンジン回転数の確認】

「警告!!」の画面の内容を確認されましたら画面左下の「次へ」をタップしてください。エンジン回転数の確認画面が表示されます。



【手順024/DPD スwitchの押下】

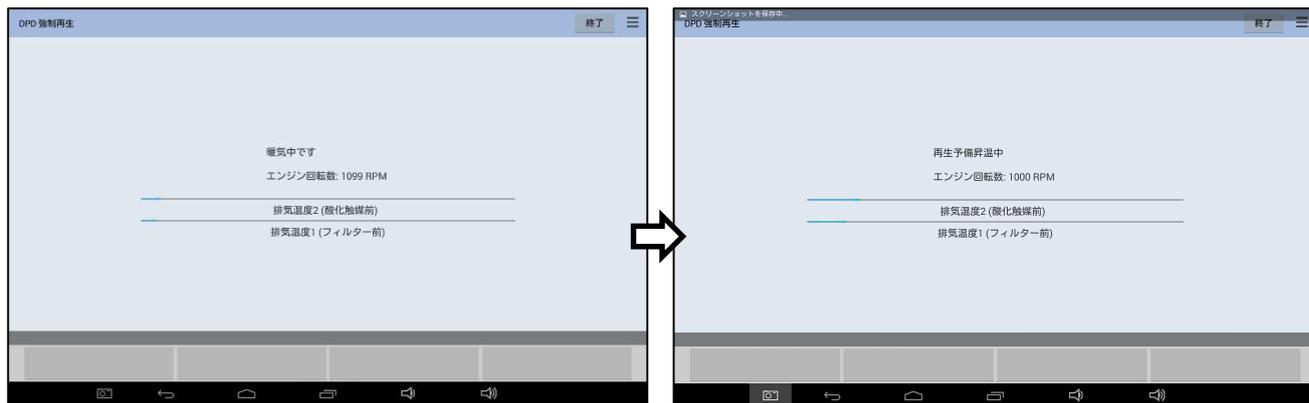
画面上の「DPD スwitchを押してください」と表示されましたら車両側の DPD スwitchを押してください。



(次ページに続きます)

【手順025/排気温度が低いときの表示】

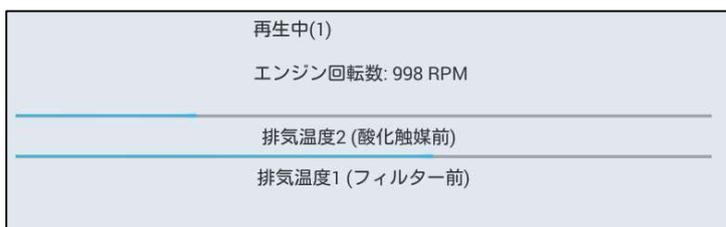
排気温度が低いときは「暖気中です」としばらく表示された後に「再生予備昇温中」と表示されます。「再生中」が表示されるまで、お待ちください。



【手順026/再生】

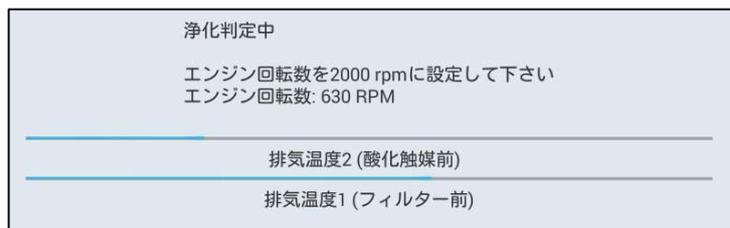
「再生中」と表示されましたら次のメッセージが表示されるまで、お待ちください。

※下のゲージ(排気温度1)が8割以上の高温になりましたらエンジンを停止させて、DPD 再生を中止して下さい。ゲージが右いっぱいにある状態が 1000 °Cになります。



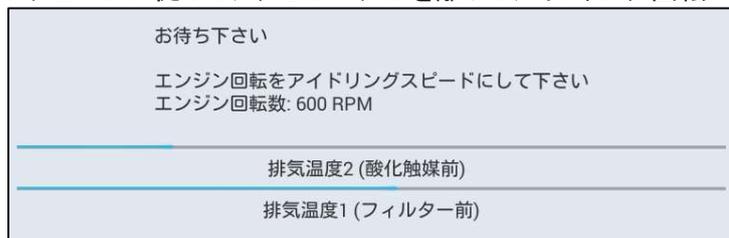
【手順027/浄化判定】

「浄化判定中」と表示されましたらメッセージに従ってアクセルペダルを踏みエンジン回転数を2000rpmまで上げてください。



【手順028/アイドル回転への戻し】

下図が表示されましたらメッセージに従ってアクセルペダルを離してアイドル回転にしてください。



【手順029/再生完了】

「再生完了!!」が表示されましたら画面左下の終了ボタンをタップしてください。



(次ページに続きます)

【手順030/排気温度1(フィルタ前)の温度確認】

【手順015】から【手順016】を参考にエンジンのデータモニタを実行してください。データモニタの「排気温度1(フィルタ前)」の温度の値を確認してください。

データモニタ						
項目	値	単位	最小値	平均値	最大値	
□ アース圧コマン	52	%	52	52	52	52
□ アース圧セサ	1.0	V	0.9	1.0	1.0	1.0
□ アース圧	101	kPa	101	101	101	101
□ 排気温度セサ1(フィルタ前)	2.3	V	2.0	2.2	2.3	2.3
□ 排気温度セサ2(酸化触媒前)	3.4	V	3.3	3.3	3.4	3.4
□ 排気温度1(フィルタ前)	305	°C	305	320	340	340
□ 排気温度2(酸化触媒前)	165	°C	165	168	175	175
□ EGR 開度	0	%	-1	0	2	2
□ EGRソリッド 駆動デューティ	19	%	9	15	20	20
□ EGRホジション1	ON					
□ EGRホジション2	OFF					

【手順031/排気温度フィルタの冷却】

【手順030】で確認した「排気温度1(フィルタ前)」の値が整備解説書に記載の基準値以上であれば、アイドルリブボリュームを回して整備解説書で指示されたエンジン回転数まで上げて、「排気温度1(フィルタ前)」の温度が整備解説書に記載の基準値以下となる様にして下さい。

※右の表は参考例です。必ず個別の車両ごとの整備解説書で値を確認してください。

【参考例/車両エンジン回転数/排気温度】

車種	エンジン型式	排気温度1 (フィルタ前)	エンジン回転数 (RPM)
エルフ	4HL1 (NA)	180°C	1500
	4HK1-TC	150°C	1500
	4JJ1-TC	140°C	1500
フォワード	4HK1-TC	150°C	1500
	6HK1-TC	100°C	1000
ギガ	6UZ1-TC	120°C	1000
	6WG1-TC	100°C	1000
エルガ	6HK1-TC	100°C	1000
エルガミオ	6HK1-TC	100°C	1000
	4HK1-TC	150°C	1500

【手順032/排気差圧のチェック】

アクセルペダルを完全に踏み込んだ状態でデータモニタの「排気温度1(フィルタ前)」の温度が整備解説書に記載された温度に達したとき、「排気差圧」のデータ表示が整備解説書の基準値以上か確認してください。

【手順033/エンジンオイルのチェック】

エンジンオイルをチェックして規定量よりも多い場合は交換を行ってください。(完了)

※:DPD 強制ゆっくり再生の場合は必ず交換してください。